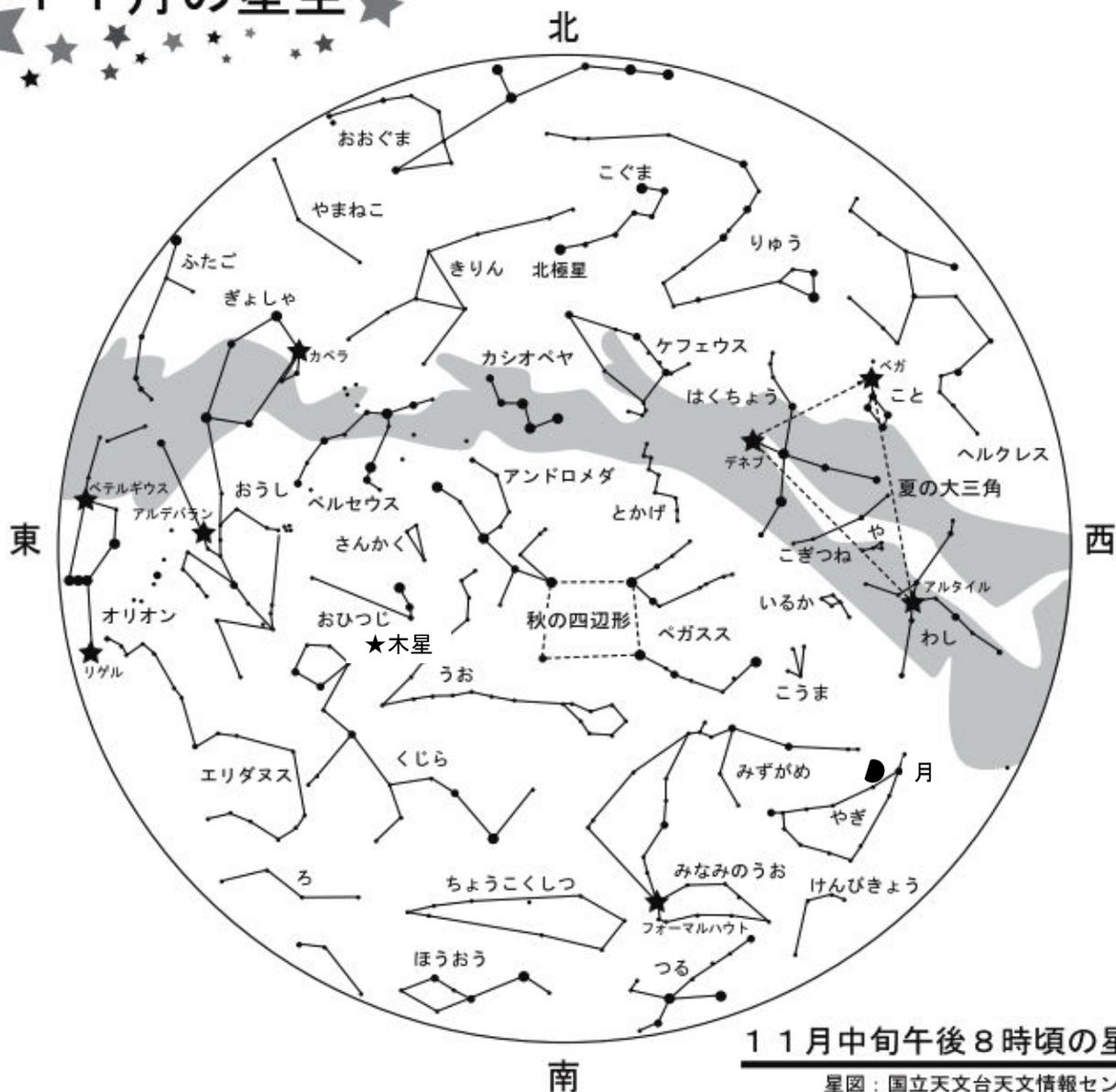


# 松江市立天文台～11月の天文教室

2011年11月2日

## 11月の星空



11月中旬午後8時頃の星空

星図：国立天文台天文情報センター

実際の空を見ながら星を探すときは見る方角を下にして見ます。

11月、秋は少しずつですが確実に深まっています。

空を見ると夏の星座達、こと座、はくちょう座、わし座が少し西に傾きながらも、まだ充分に見ることができます。しかし主役は秋の星座達、ペガサス座、アンドロメダ座、ペルセウス座、カシオペヤ座などギリシャ神話の有名な登場人物達が夜空を飾ります。

南の空に目を転じると、街の光に負けそうになりながらも懸命に輝く、みなみのうお座の $\alpha$ 星フォーマルハウト、その純白の光は、周りに他に明るい星が無いだけに、ちょっと秋らしい寂しさを感じられます。

そして東の空には、太陽系最大の惑星である木星が、おひつじ座、うお座、くじら座に囲まれて、ひととき明るいオレンジ色の輝きを私たちに見せてくれています。

# 今夜の観望リスト

今夜お見せした天体をご紹介します。(天候の状況等で観望対象は変更する場合があります。)

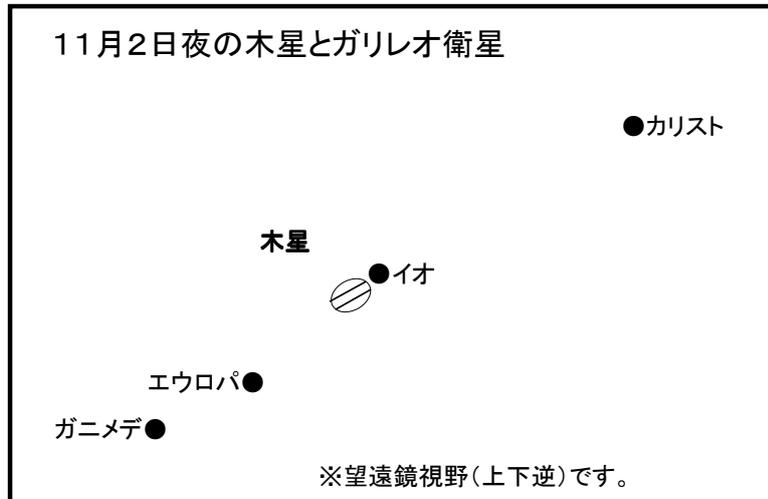
## 木星

木星は太陽系最大の惑星で、直径は地球の11倍、質量は300倍以上あります。

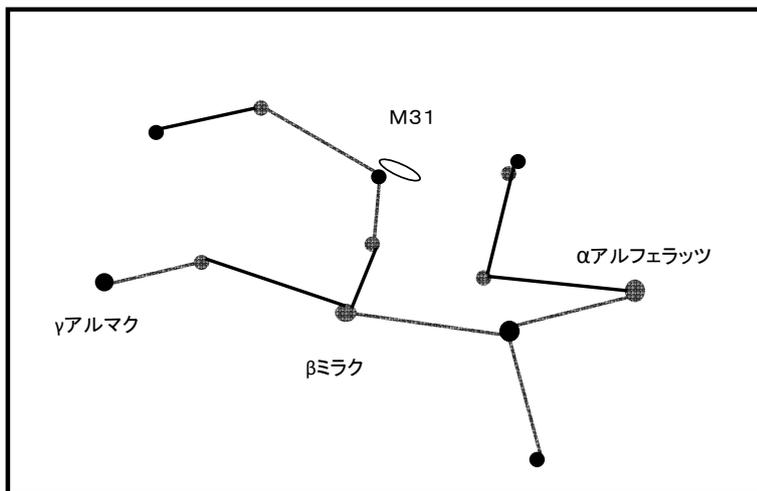
小口径の望遠鏡でも表面の縞模様を見ることができます。

4つの大きな衛星は、ガリレオが400年前に望遠鏡で発見したので「ガリレオ衛星」と呼ばれていて、見る日や時間によって位置関係が変わります。

11月2日夜の木星とガリレオ衛星



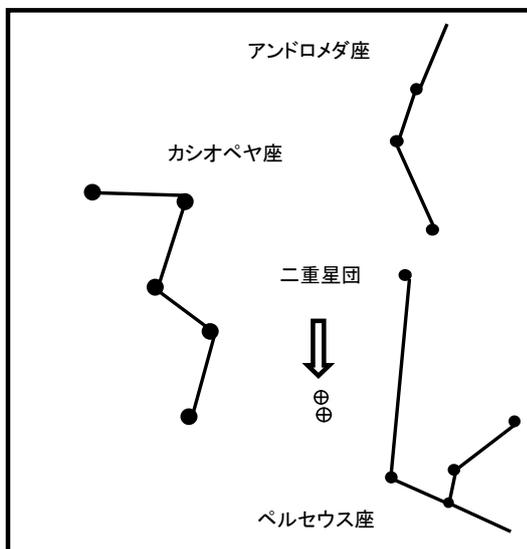
## アンドロメダ座 $\gamma$ 星(アルマク)



アンドロメダ座の $\alpha$ (アルファ)星はアルフェラッツ(馬のへそ)というおかしな名前がついていますが、この星がペガサス座に属していたことが由来のようです。 $\beta$ (ベータ)星はミラク(おび)という2等星、 $\gamma$ (ガンマ)星はアルマク(くつ)というこれも2等星です。アルマクはひじょうに美しい二重星で、小型望遠鏡でも青と黄のふたつの星のコントラストが楽しめます。

また、この星座はM31(アンドロメダ大銀河)でも有名です。街灯の無い場所では、晴れて月の無い夜ならば肉眼でも存在が分かります。

## ペルセウス座二重星団



ペルセウス座二重星団は、名前のとおりペルセウス座に属しますが、カシオペア座からたどっていくと双眼鏡でも見つけられます。300個と240個もの星の集まりである散開星団が、寄り添って並んで見え、双眼鏡や小型望遠鏡で美しい姿を見ることができます。

このふたつの星団は、地球からの距離が、それぞれ約7千光年、8千光年と、同一方向に見えるだけで、実際には遠く離れています。

なお、平成5年12月に松江市の金津和義さんがカシオペア座に光度6.5等級の新星(急に明るくなる星)を発見しています。(※現在は暗くなって見ることは出来ません)